



「古民家で落語会」

昨夜の雨も上がり五月晴れとなった昼下がりに横浜市営地下鉄「センター北駅」に参加者が集った。会場である古民家では靴を脱いで入場するため入口が狭いこともあり参加者全員(49名)が同時に到着すれば混雑が予想された。そのため2班に分けて会場まで歩いてもらった。(約10分)



古民家は江戸時代に建てられた近くの民家「長沢家住宅」〈名主〉を移築したもので一部の部材は当時の材料がそのまま使用されているとのことでした。また、柱の一部にチヨウナ仕上げが見られること、土間境の柱が大黒柱になっていないことなどより横浜に残っている古民家の中でかなり古いものであるといわれています。母屋と馬屋はロウカでつながれ、棟をそろえて連続して建てられていた。

中に入ると、奥に畳敷きの部屋(接客間)が2室ありそれにヒロマを加えて観客用の座椅子やパイプ椅子などを用意して落語会場を整えた。会場



は天井が高く張られ板戸を開け放てば風がとおり暑さがしのげて快適であった。

先ず、開始に先立ち世話役より本日の予定、神奈川会会長からの挨拶、次いで古民家館長より生い立ちなど概要説明の後落語会を開催した。



本日の出演者は「六法亭 無生」さんと「橘ノ 百園」さんです。二人とも日本大学経法商落語研究会のOBです。それぞれの演目は次のとおりです。

「六法亭 無生」さんは「八五郎出世」と「時そば」

「橘ノ 百園」さんは「猫の皿」と「質屋庫」

それぞれ一つの演目を演じあった後中入りに入り次の演目を演じていただいた。



いずれもが知られている題目であり、お二人ともベテランの貫禄がにじみ出て巧みな話術で分かりやすく参加者をたちまち惹きつけておられた。

参加者は女性が半数を超えておりまたシニア層であったが終始耳をそばだてて拝聴されていた。時々大きな笑い声が鳴り響き参加者の皆さんが内容を分かる反応の良さと中身のある落語を堪能されていました。

参加者の方からは「大変おもしろかった」、「これほど笑いすぎたことが最近無かったので良かった」、「表情が豊かで話に引き込まれ笑いを堪能させていただいた」等の声が届いていた。笑いは幸せを呼び込むものと確信した次第です。時間のたつのも忘れさせるほどあっという間の2時間であった。



その後、希望者による懇親会が駅近くの土鍋ごはん「米三」にて出演者も入って31名により開催された。

人数も多いことから今回は店を貸切で使用させていただき、室内の真ん中のテーブルを中心に4つに分散して楽しんだ。

人数が多いこともあって前もってドリンクを注文しておいたが、残念ながら遅れてしまった。特に、当日は夏日になり炎天下を歩いてきたこともあってビール類の注文が多かったのも影響していた。かなり待たされたこともありのど越しのビールは格別であった。

次から次へと飲み物の追加注文が入り料理を堪能しながらシニア層の元気な一面を見させていただいた。

料理は宴会特別コースを注文したがその中で「付けだし」が七種野菜のきんぴらをはじめとした数種類の采がビールなどの酒類に合い美味しかったとの声が多く聞かされた。

他に鮭ハラスの炙り焼きが絶品であり最後に出された土鍋ごはんはお米がこんなにおいしいとの参加者全員から賞賛の声が出ていた。

食事だけでなく参加者の多くは本日の落語から日頃の話題など時間が足りなくなるように会話も多く楽しんでおられた。

楽しいことはすぐ時間が経つものであっという間に2時間を経過し貴重な一日を良い思い出となり参加者の皆さんが満足された時を過ごされたと確信した次第です。

文 章 木村 一雄
編集・写真 富山 友次